

授業の質的改善の手順①

児童の実態を資質・能力の面から捉え、育成したい資質・能力を設定しました。(6月)

算数で育成したい資質・能力の面から、学級の実態を調査しました。学習状況調査の結果と学級担任の見取りにより、以下のような児童の実態がありました。

知識・技能

- ・「分からない数を□として、問題文を立式する」問題では、約半数の児童が間違えていた。「全部で」というキーワードに頼ったり、文章に出ている数だけで立式したりするなど、式の意味の理解が十分ではないといえる。(学習状況調査)

思考力・判断力・表現力等

- ・友達の考えをよく聞いて、自分の考えと似ているところや違うところを見付けることができる。(担任の見取り)
- ・自分の考えを図に表したり簡潔に表したりすることが苦手で、発表する言葉を全て文章で書いている児童が多い。(担任の見取り)
- ・既習事項と関連付けて考えようとする児童が少ない。(担任の見取り)
- ・自分の考えの根拠を述べるのが難しい。(担任の見取り)
- ・問題解決の方法を、何らかの方法で表そうとしているが、説明の仕方が相手を意識できていなかったり、図、式、言葉を関連付けて表現できなかつたりする児童がいる。(担任の見取り)

主体的に学習に取り組む態度

- ・学び合いの時間を楽しみにしており、自分の考えをノートに書いて説明しようとしている。(担任の見取り)
- ・与えられた問題に進んで関わろうとしている児童は多いが、自ら進んで「他にもできないかな」と課題を持って取り組もうとする姿が見られない。(担任の見取り)
- ・自分の考えを説明しようとする児童は多いが、相手意識を持って説明したり、聞いたりする姿があまり見られない。
- ・自分の考えに自信がなく諦めてしまう児童や、教師からの声掛けを待っている児童がいる。(担任の見取り)



この実態を踏まえて、育成したい資質・能力を以下のように考えました。

知識・技能

- ・数量の概念とその表し方、計算の意味と性質を理解し、整数、小数、分数の計算をすることができる。
- ・図形の概念と意味、その性質について理解し、図形を構成したり図形の面積や体積などを求めたりすることができる。
- ・式、図、表やグラフの意味を理解し、事象や問題を式、図やグラフに表したり、表された式、図、表やグラフから事象を読み取ったりすることができる。

思考力・判断力・表現力等

- ・問題解決の方法を、図や式、言葉などで筋道を立てて表現したり説明したりすることができる。
- ・既習の内容を使って問題解決することができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・「他にもできないかな」「どうすればできるのだろう」などと自ら進んで取り組もうとする態度。
- ・「友達はどのような考えなのだろう」「自分の考えを伝えたい」などと、相手意識をもって話し合おうとする態度。